人と自然の情報交流誌
たてはく
第127号
2024.1.1
富山県［立山博物館］

立山博物館の文化観光拠点計画

立山博物館では、国の補助を受け、令和５年度から９年度までの５か年をかけて「立山博物館を中核とした文化観光拠点計画」に取り組みます。これは、立山博物館を計画の中核となる施設に据え、再整備によって博物館の魅力を向上させることにより、観光を振興し、地域の活性化につなげ、その経済効果が文化振興に再投資される好循環を生み出すことを目的とするもので、計画の主な事業内容は以下のとおりです。

開館以来30年が経過し、展示の手法などに古めかしさが感じられるようになってきたことや、研究が進んだ面がアップデートされていないといった課題が浮上してきており、本計画によってそれらの課題解消を図ることで、より立山や立山信仰の奥深い世界に触れ、自然探勝などと併せて、文化、歴史面への理解を深めていただけることを目指します。また、展示館への多言語対応の音声ガイドの導入、遙望館やまんだら遊苑など、広域に分散する施設への誘導案内看板の多言語化や、デジタルガイドマップの導入など、インバウンド外国人向けの対応を強化するなどし、より様々な方々に立山博物館の施設全体を楽しんでいただけるよう改善を図っていきます。

これにより、立山博物館の魅力向上に限らず、立山博物館を中心に立山山麓に新たな周遊を生み出し、経済面も含め地域の活性化に寄与していくこととしています。５年後には、生まれ変わった立山博物館の姿を皆さまにご覧いただけるよう、職員一同一丸となって計画を推進していきたいと思います。（鈴木博喬）

主な事業内容　※令和５年度中に実施するものに*印

○展示リニューアル

タッチパネルによる立山曼荼羅デジタル展示*、解説パネルなどの刷新・多言語化、立山地獄コーナーへのプロジェクションシアター導入など

○「日本三霊山」関連事業

常設展に三霊山コーナーの設置*、三霊山に関わる企画展の開催

○情報発信の強化その他

新ＷＥＢサイト開設*、デジタルガイドマップ制作、アルペンルート等での出張展示など

このほか、県文化振興課や立山町、地元の企業･関連団体などと連携して、多彩な立山体験ツアーの実施、インバウンド誘客の取組強化、立山博物館の情報発信の強化（動画コンテンツ制作・配信など）、Ｅマウンテンバイクを活用した立山エリアの周遊促進、物販関連事業（商品開発・販売）などにも取り組みます。

目　次

立山博物館の文化観光拠点計画 …… 1
瑞祥新春 …… 2
令和５年度後期特別企画展「越中立山の近世本草学―何でもあり！あふれる探求心―」を終えて …… 2
令和５年度文化講演会「立山の高山植物、その探索の歴史　―近世から近代へ―」を終えて …… 2
学芸課発　立博雑学　新出資料！「越中立山のクタベ」話を記した美濃の梅田光國氏 …… 3
４館連携事業　「立山曼荼羅の魅力」を語る講座を開催 …… 3
友の会バスツアー　「今年度は、錦秋の白山で禅定道と下山仏を学ぶ旅！」 …… 4
まんだらナイトウォーク＆もみじを愛でる会を終えて …… 4
博学連携　中堅教諭資質向上研修 …… 4
編集後記 …… 4

瑞祥新春

館長
岡田知己

今年の干支は甲辰（きのえたつ）です。辞書等には、甲は甲冑の甲の文字から鎧や兜を連想させ、種子が厚い皮に守られて芽を出さない状態や、物事に対して耐え忍ぶ状態を表す文字とあります。また、生命や物事の始まり、成長を意味するとも。対して辰は「振るう」という字に由来しており、万物が振動し、草木が成長して活力が旺盛になる状態を表すそうです。辰は龍とされ、唯一空想上の生きものですが、権力・隆盛の象徴として昔から親しまれていたことから、十二支の一つとなったのかもしれません。

さて、辰年は、変革や激動の年といわれています。また、これまでの努力が実り夢が叶う年とも。「日本三霊山連携協定」の締結や「立山博物館を中核とした文化観光拠点計画」の認定など、立山博物館はいま大きな使命を担うことになりました。博物館の魅力をさらにアップできるよう、職員一同全力で取り組む所存です。本年も立山博物館をよろしくお願いします。

令和5年度後期特別企画展
「越中立山の近世本草学　―何でもあり！あふれる探求心―」を終えて

これまでも本草学史をテーマにした企画展を開催してきましたが、今回はバラエティーに富んだ近世本草学の隆盛と、その成果が江戸時代の人たちの心の豊かさ、ウェルビーイングな生活にも繋がった歴史をたどりました。

越中立山で観察し記載、採集された植物、動物、石などを詰め込んだ「何でもあり」の展示は、江戸時代の園芸ブーム、加賀藩の雷鳥調査、立山と誕生石信仰の話など、盛りだくさんな内容になりました。中でも、初公開の山本渓山が幕末の立山で採集した高山植物腊葉標本や明治時代に旧福光町の谷村西涯が書き残した「大日本本草」草稿等は、当館の地道な調査活動の成果を知っていただく機会になったと思っております。たまたま、今年は牧野富太郎がモデルの TV ドラマが人気だったからか、特に植物に興味を持たれた多くの方にご覧いただけたのも大変ありがたいことでした。

この企画展をご観覧いただいた皆様が、知らなかった世界の意外なエピソードを知る楽しみを味わい、ひととき豊かな時間を過ごしていただけましたなら、大変ありがたく思います

最後に、調査や資料出品等に様々な形でご協力いただきました皆様に、改めて厚くお礼申し上げます。（観覧者数:2,064 人）（吉野俊哉）

展示の様子

展示解説会の様子

令和5年度文化講演会
「立山の高山植物、その探索の歴史　―近世から近代へ―」を終えて

10 月 14 日、立山町元気交流ステーションみらいぶで文化講演会を開催しました。

今年は、立山の植生を研究しておられる佐藤卓氏（日本海植物研究所所長）から、江戸時代の本草学者や明治時代の植物学者たちが立山で採集した植物や、それを元に学名や和名が付けられた経緯にまつわるエピソードをお話いただきました。

今年は新型コロナの５類移行で入場制限も緩和でき、たくさんの皆様にお越しいただき、大変ありがたく思っております。（吉野俊哉）

学芸課 発

立博雑学

学芸課によるリレー形式のコラムです。立山や立博についての蘊蓄（うんちく）や魅力を、雑学としてお伝えします。

第11回　新出資料！「越中立山のクダベ」話を記した美濃の梅田光國氏

令和 5 年 12 月、京都市にある古美術商より「越中立山のクタベ」が記されている資料を購入した。梅田家の光國氏によって記された冊子で、資料名称としては「濃州梅田家合本」とするが、どういった理由でまとめられたものかなどは未詳である。ここでは簡単に本件資料について紹介したいと思う。

■筆者：濃州本巣郡見延村
（現・岐阜県本巣市見延）
「梅田梅太郎尉　光國」
■表題：「米野合戦 竹ヶ鼻落城記/
世帯平記雑具噺/雑書」
■形態：竪帳 、肉筆
■法量：縦23.5ｃｍ×横16.7ｃｍ
■制作年代：文政9年（1826）～
11年（1828）頃
■内容：大きく分けて、米野合戦の竹ヶ鼻落城記と「世帯平記雑具噺」と雑書が、美濃国見延村の梅田光國氏によってまとめられたものである。米野合戦は、美濃国羽栗郡米野村（現・岐阜県羽島郡笠松町）で慶長5年（1600）8月に行われた、岐阜城を巡る関ケ原の戦いの前哨戦の一つである。「世帯平記雑具噺（咄）」も写しがいくつか残っていることから広く語られていた話を記したとみられる。雑書としては、蓮如上人御歌や「一枚起請文」、「御勘定方へ」などが記されており、最後に文政10年（1827）に記された「越中立山のクダベ」の話がある。

〈翻刻〉
一 越中立山ニテ此クダベ薬種をほる
人ニあらわれ出て告ていわく
当年より四五年之内ニ名もなき
病ひ流行有て老若ともニ人多ク
死するなり　依之此図を絵かき
常ニ見ル時ハ其病ヲのがる之事
うたかひなし
文政十年
梅田梅太郎尉
光國（花押）

「越中のクダベ」が記されるページ

薬種を掘りにきた者に疫病流行を伝えたといわれる「越中立山のクタベ」について記載されている資料は、現在確認できているもので10点ほどしかない。詳しくは、細木ひとみ「疫病流行を告げる『クタベ』と越中立山に現れた理由」（『研究紀要』第27号、富山県［立山博物館］、令和3年3月刊）に記したが、越中立山のクタベ話の流行は、江戸時代の随筆『虚実無尽蔵』や『寛政文政間日記』坤（ともに国立国会図書館蔵）などから文政10年冬から11年春と考えられる。本件資料も、記された年号から文政10年（1827）に写されたものとわかり、クタベ流行時に美濃の梅田氏が雑書として記載したものといえる。

内容を見ていくと、文言は『虚実無尽蔵』（国立国会図書館蔵）に類似しており、描かれる「クダベ」の姿は『弘賢随筆』（国立公文書館蔵）に酷似している。両書とも、当時、江戸で流行している話などをまとめた随筆で、見延村の梅田光國氏の耳にも入るほど「越中立山のクタベ」伝説が広まっていたことがうかがえる。（細木ひとみ）

●新規購入した本件資料は、冬のミニ公開展「美濃国見延村で記された!?『越中立山のクダベ』」と題して、令和6年2月6日（火）より3月31日（日）まで立山博物館の展示館2階で特別公開します。ぜひお越しください。

4館連携事業

「立山曼荼羅の魅力」を語る講座を開催

富山県美術館・富山県水墨美術館・高志の国文学館と立山博物館が連携する事業が今年からスタートしています。

立山博物館では、平成28年度より立山曼荼羅を高志の国文学館の一角で展示しており、その縁で「立山曼荼羅の魅力」を語る講座を高志の国文学館主催で開催することになりました。ぜひ、ご参加ください。（細木ひとみ）

開催日時：令和6年2月4日（日）　14：00～15：30
開催場所：高志の国文学館　研修室101号室
聴講定員：100名
※1月24日（水）から3月11日（月）まで「立山曼荼羅」宝泉坊本（個人蔵）を高志の国文学館で展示します。聴講については、高志の国文学館までお問い合わせください。

「立山曼荼羅」宝泉坊本（個人蔵）

友の会バスツアー

今年度は、錦秋の白山で禅定道と下山仏を学ぶ旅!

11月1日（水）、立山博物館友の会の見角会長をはじめ、玉木副会長、友の会会員、ボランティア会員の総勢27名で石川県へバスツアーに行ってきました。

午前中は、白山開山の祖とされる泰澄大師が開基したと伝わる那谷寺（小松市）へ。小松市のボランティアのご案内で、加賀藩主であった前田利常が建立した大悲閣（本殿）や三重塔、鐘楼といった国の重要文化財をじっくりと拝観し、色づき始めた奇岩遊仙境では記念撮影もしました。

午後は、白山市白峰の林西寺を訪れ、加藤ご住職のお話しを聞きながら明治7年（1874）に白山嶺上三社や室堂等からおろされた下山仏を拝観しました。その後、白山市博物館で、林西寺の資料なども展示されていた特別展「白山への道～白山下山仏と禅定道」（令和5年10月7日～11月19日開催）を観覧しました。

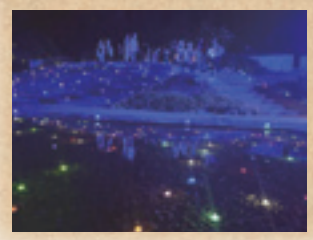
これまでも白山信仰について学ぶため、関連史跡や寺院などを訪れてきましたが、今年からスタートした「日本三霊山連携事業」の一環としても意義のあるツアーとなったようです。参加した方々からも「すごく勉強になった！」というお声をたくさんいただきましたので、来年もまた、楽しく学べるツアーにしたいと思います。（細木ひとみ）

まんだらナイトウォーク＆もみじを愛でる会を終えて

9月9日（土）、10日（日）の両日「まんだらナイトウォーク」をまんだら遊苑にて、また11月3日（金・祝）5日（日）の両日「もみじを愛でる会」を教算坊にて開催しました。

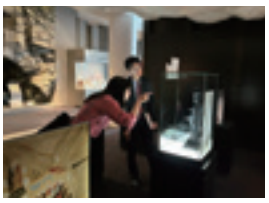
ナイトウォークでは雨が降ってきたり、もみじを愛でる会ではもみじがまだ紅葉していなかったりなどがありましたが、両企画とも多数ご来苑・ご来館頂き本当に感謝しています。

今後も楽しい企画を通じて、皆様に博物館施設の良いところをご案内できればと思います。（毛利成宏）



博学連携

中堅教諭資質向上研修



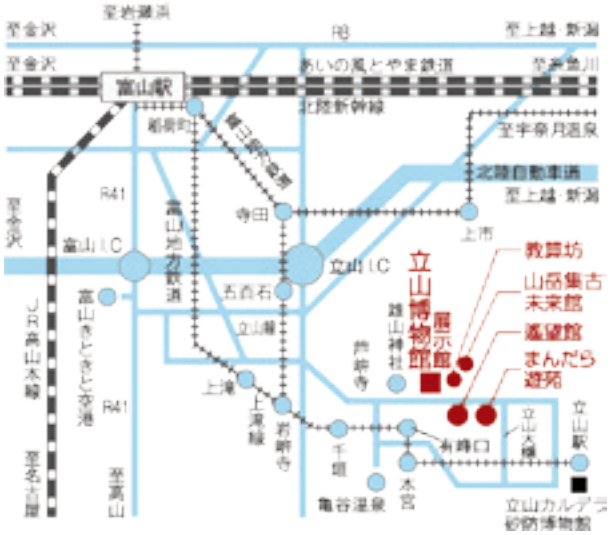
10月11日（水）～12日（木）、県教育委員会の依頼で、中堅教諭等資質向上研修を実施しました。この研修は高校教諭を対象に、学校運営で中核的役割を果たす資質を身に付けることを目的として、実施されるものです。

今年度は1名の参加があり、展示施設の見学、教育普及活動等について研修しました。最終日は「立山に地獄あり」のコーナーの展示解説実習の後、博学連携について館長、学芸課職員と意見交換を行い、日程を終了しました。（奥澤真一郎）

編集後記

立山周辺の地域活性化の中核を担うことになった立山博物館。今まで以上にたくさんの方々にお越しいただけるよう、長所をさらに磨き上げ伝わりやすく！新技術を展示や施設に取り入れ！パワーアップを目指します！！手始めに、今年度中には、立山曼荼羅をタッチパネルでじっくり眺められるコンテンツや、新しいHPを公開予定。リピーターの皆さまも、はじめての方も、お楽しみに。（M）

案内図



●最寄り駅
富山地方鉄道立山線千垣駅
下車徒歩（約２km）
※日曜を除き町営バス運行
「雄山神社前」下車すぐ

●自家用車で
JR富山駅から　約45分
立山駅（千寿ヶ原）から　約15分
富山インターチェンジから　約35分
立山インターチェンジから　約30分

立山博物館のホームページはこちらから。

人間と自然のかかわり方を学ぶ
富山県［立山博物館］
〒930-1406 富山県中新川郡立山町芦峅寺93-1
TEL 076－481－1216　FAX 076－481－1144
https://www.pref.toyama.jp/branches/3043/home.html

Facebookあります！ 立山博物館